薬事日報　2003(平成15)年5月23日　金曜日

「大学発BV協会」が発足

関係省へ政策提言

会長には水島氏が就任

大学発バイオベンチャー協会（世話人代表：水島裕東京慈恵医大DDS研究所所長、LTTバイオファーマ会長）の設立会が19日に開かれ、「設立趣旨」「会則（案）」「これからの活動」などが了承された。当日は正会員28氏、賛助会員28氏が入会（ほぼ全員参加）した。今後できるだけ早期に総会を開催して正式発足すると共に、今秋をメドに関係省に政策提言を行うなど、足早な取り組みを行っていく方針である。また水島氏は会長に、上田実世話人（名古屋大学大学院教授、J・TEC&オステオジェネシス取締役）と森下竜一世話人（大阪大学大学院教授、アンジェスエムジー取締役）は副会長に就任した。

水島会長、上田副会長、森下副会長の3氏は設立会後に会見。「生命科学分野における独創的なシーズは、8割が国立大学の研究者の中にある」（上田氏）と、大学に豊富な基盤技術研究があることを指摘。

しかし、これらシーズを産業化していくためのルールづくりはこれからの段階で、協会発足の主要な動機ともなっている。こうした中での国立大学独立行政法人化は「絶好のタイミング」（上田氏）であり、文部科学省をはじめ関係省に、ルールづくりを提言することを、協会の最初の仕事と位置づけている。設立総会に先立って準備会的な設立会としたのも、進展する情勢に対応したもの。

会見する左から上田、水島、森下の3氏

今後の活動としては、①対象は医薬品をはじめとするバイオ関連製品全てとする②厚生労働省への要望＝治験・審査の迅速化など③特許問題＝審査、機関、対外国など④起業にまつわる問題＝兼業、利益相反（大学・大学発ベンチャー間）、TLO・権利移転など⑤商法・税法に関する問題⑥支援業界のあり方――などを挙げている。

当日は大学発ベンチャー（正会員、計画中も含む）の参加は30社弱であったが、参加社を含め70社余りが賛意や反応を示しており、当面100社程度の参加を期待している。

一方、賛助会員はベンチャーキャピタルや証券会社、監査法人などが多数参加。今後は医薬品企業やバイオ関連企業の参加が期待されるが、既に多数の企業が協会設立に賛同しており、今後賛助会員としての加盟が見込まれている。また、日本製薬工業協会など関係団体との話し合いも進める方針。

官主導や産業側の政策提言に限界がある中で、本体の"学"が結集して問題解決に当たる意義は極めて大きい。技術移転のためのインフラ整備に向けて、突破口となることが期待されている。